

2012 年度アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト実施報告

International Intercultural Mural Exchange [IIME]

ジャパンアートマイル (JAM)

2012 年度の「アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト」はこれまでの文部科学省の後援に加えて外務省の後援事業として実施することで国内外で広く展開することができ、参加国・地域は過去最大の 30 の国と地域、参加校・参加生徒数も過去最大の 126 校 4188 人となった。JAM 事務局では専任スタッフを加えた新体制で参加校をサポートして国際協働学習の成果を上げることができた。

1 国内・海外の参加校

2012 年度アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクトは、海外は過去最多の30の国と地域から63校の参加、国内は16の都道府県から63校の参加があり、参加生徒数は過去最多の 4188 名だった。

【海外参加：30の国・地域】

アメリカ・イギリス・インド・インドネシア・ウガンダ・オーストラリア・カタール・カナダ・カザフスタン・韓国・キルギス・コスタリカ・スリランカ・セネガル・タイ・台湾・中国・チュニジア・ナイジェリア・ニカラグア・パキス

タン・パレスチナガザ・ブラジル・ホンジュラス・マレーシア・メキシコ・モロッコ・ヨルダン・ルワンダ・ロシア

【国内参加：16都道府県】

北海道、宮城県、埼玉県、東京都、神奈川県、山梨県、石川県、長野県、愛知県、岐阜県、京都府、大阪府、兵庫県、佐賀県、長崎県、鹿児島県

【参加校：126校／参加生徒数：4188名】

参加校:126校 (日本・海外 各のべ63校)
生徒数:4188名 (日本 2020名・海外 2168名)

【日本と海外の交流相手校一覧】

NO	国・地域名	日本参加校名	海外参加校名
1	Australia	兵庫県赤穂市立原小学校	Trawalla Primary School
2		兵庫県赤穂市立御崎小学校	Urquhart Park Primary School
3		石川県金沢市立額小学校	Buninyong Primary School
4	Brazil	愛知県知多市立旭北小学校	Associacao Crianças de LUZ
5	Canada	石川県七尾市立小丸山小学校	Fielderest Elementary School
6		石川県七尾市立小丸山小学校	WHD Elementary School
7		埼玉県草加市立高砂小学校	Morrisburg Public School
8		東京都多摩市立南鶴巻小学校	Valley View Elementary School
9		東京都江戸川区立一之江第二小学校	Fielderest Elementary School
10	China	佐賀県神埼市立神埼小学校 (1)	Shanghai Japanese School (1)
11		佐賀県神埼市立神埼小学校 (2)	Shanghai Japanese School (2)
12	Costa Rica	長野県松川町立松川中央小学校	Lic. Alberto Echandi Montero
13	Honduras	宮城県仙台市立蒲町中学校	Alejandro Flores
14	India	石川県金沢市立額小学校	Muni International School

NO	国・地域名	日本参加校名	海外参加校名
15	Indonesia	長崎県長崎市立尾戸小学校	SDN Perak Barat IV/04
16		兵庫県赤穂市立高雄小学校	SDN Rungkut Menanggal I
17		兵庫県明石市立魚住東中学校	SMA NEGERI1 GIANJAR
18		兵庫県立芦屋国際中等教育学校 (1)	SMPN 23 (1)
19		兵庫県立芦屋国際中等教育学校 (2)	SMPN 23 (2)
20		大阪府私立羽衣学園高等学校	SMAN 5
21		北海道海星学院高等学校	SMAN 21
22		東京都立田柄高等学校	SMA Negeri 1 Ubud
23	Jordan	石川県金沢市立額小学校	Irbid camp prep girl's school No.2
24	Kazakhstan	東京都中央区立月島第三小学校	School Gymnasium 10
25	Kyrgyzstan	東京都多摩市立東愛宕中学校	Humanitarian Lyceum
26	Malaysia	北海道札幌市立札幌大通高等学校	Montfort Youth Centre
27	Mexico	石川県金沢市立浅野川小学校	Comunidad Educativa Yaxunah
28		長崎県長崎市立西北小学校	Francis Bacon School
29		兵庫県赤穂市 Sherry 英語教室	Secundaria Preparatoria Lomas Del Valle
30		大阪府立貝塚高等学校	Prepa Tec Cumbres
31	Morocco	神奈川県横浜市立桂小学校	Ibn el Haytam
32	Nicaragua	岐阜県羽島市立福寿小学校	Municipal House for Adolescents and Youth CaMAJ
33	Nigeria	神奈川県横浜市立並木第四小学校	Famaks International School
34		神奈川県横浜市立永谷小学校	Famaks International School
35	Pakistan	兵庫県赤穂市 Sherry 英語教室	Springfield Public School
36	Palestine-Gaza	愛知県私立岡崎城西高校	Nowar Center
37	Qatar	愛知県知多市立旭北小学校	Japan School of Doha
38		大阪府寝屋川市立友呂岐中学校	Abdul Rahman Bin Jassim Independent Preparatory School
39	Russia	岐阜県多治見市立養正小学校 (1)	Educational Center 1471 (1)
40		岐阜県多治見市立養正小学校 (2)	Educational Center 1471 (2)
41	Rwanda	愛知県安城学園岡崎城西高等学校	Nyagatare Secondary School
42		神奈川県横浜市立東市ヶ尾小学校	Butare Center for the Deaf
43	Senegal	神奈川県横浜市立高田小学校	CEM1 de Dahra
44	South Korea	愛知県東浦町立緒川小学校 (1)	Munbaek Elementary School (1)
45		愛知県東浦町立緒川小学校 (2)	Munbaek Elementary School (2)
46	Sri Lanka	石川県金沢星稜大学	Hardy College of Technology
47	Taiwan	石川県金沢市立泉野小学校	Sin Shan Elementary School
48		石川県金沢市立四十万小学校 (1)	Wen Ya Elementary School (1)
49		石川県金沢市立四十万小学校 (2)	Wen Ya Elementary School (2)
50		石川県金沢市立花園小学校	Jia-Nan Elementary School
51		兵庫県赤穂市 Sherry 英語教室	National Fenhsin Senior High School
52		兵庫県明石市立野々池中学校	Wen Hua Elementary School

NO	国・地域名	日本参加校名	海外参加校名
53	Taiwan	石川県金沢市立浅野川小学校	Ze Hsin Elementary School
54	Thailand	神奈川県星槎国際高等学校	Plearpasa Language School
55	Tunisia	横浜市長白幡小学校	Association Tunisienne des Handicapés sourds de Nabeul
56	Uganda	神奈川県横浜市立文庫小学校	Namityango College
57		神奈川県横浜市立入船小学校	Greenhill Academy
58		神奈川県横浜市立川島小学校	Nakaseet a Foundation Primary School
59	UK Wales	愛知県知多市立旭北小学校	Bryn Hafren Comprehensive School
60	USA	石川県金沢市立浅野川小学校	ST. Pius X
61		石川県志賀町立富来小学校	Van R. Butler Elementary School
62		京都府木津川市立木津南中学校	John Adams Middle School
63		東京都多摩市立落合中学校	Scales Mound Community Unit District #211

2 一年間の流れと各段階の国際協働学習

(1) 一年間の活動の流れ

相手校との協働学習は9月にスタートする。

4-5月	参加申込期間
6月	JAMより参加決定通知→海外校紹介
6-7月	事前学習(自己紹介準備・テーマ検討等)
8月	相手校と協働学習スケジュール作成 交流ツールのチェックと交流準備
＜相手校との国際協働学習スタート＞	
9月	自己紹介・学校紹介・地域紹介
10月	テーマについて調査・協働学習
11月	構図と制作分担の決定・下絵制作
11月	日本側の壁画制作→キャンバスの半分
12月	に絵を描いて相手に送付
1月	海外側の壁画制作→壁画完成
2月	→作品鑑賞後日本校に作品を送付
3月	作品鑑賞と年間活動のふりかえり

※完成作品は3月末にJAMに送付する。

(2) 段階を追って進む国際協働学習

交流相手が決まった各ペアはお互いの長期休みや学期のズレなどを考慮しながら相手と協働学習スケジュールを立てた。そのスケジュールに従ってJAMが提供する電子フォーラム上で相互にコミュニケーションをとりながら自己紹

介・協働学習・壁画制作と段階を追ってプロジェクトを進めていった。

[Step1: 出会い～自己紹介(9月)]

最初は自己紹介。各ペアはフォーラムを使って自己紹介をした。フォーラムは非公開でIDとパスワードで守られているため安心して生徒の写真を載せることができる。相手の顔が見えると世界に友だちができた実感があり、一緒に学び合うモチベーションが高まる。

時差が少ないところはテレビ会議を行った。実際に顔を合わせるとさらに相手意識が強まる。



フォーラムでは写真をうまく使うと少ない英語で多くの情報を伝えることができる。

自己紹介に加えて学校や地域の紹介をしたところも多かった。自国の文化を見直し、異文化に触れることができ、よいスタートが切れる。





【Step2：テーマ学習(10月)】

テーマは、文化・環境・平和・夢・昔話など相手と相談して決めた。

岐阜県羽島市立福寿小学校とニカラグアの青少年の家の子どもたちは、「環境」「文化」「つながり」をテーマに協働学習を行い、自分たちの自然環境や身近な伝統文化を伝え合った。



伝えたいことをフォーラムにアップして情報を共有した。



ニカラグアでは日本の文化に挑戦して、お箸を使う練習をしたり、折り紙を折ったりした。



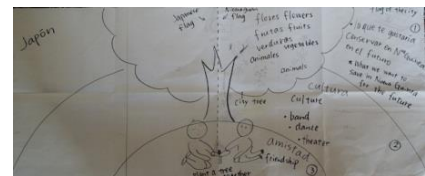
クリスマスカードを送り合った。ニカラグアでは習字をして「かきぞめ」を書いた。



テレビ会議でテーマ学習を行ったところもあった。相手の顔を見て相手の反応を見ながら発表すると、相互理解が深まるだけでなく、プレゼンテーション力や英語を使う力が育ち、教師も生徒も海外の人と協働する自信が生まれる。

【Step3：構図と制作分担の決定(11月)】

テーマについて協働学習したことをどういう絵に表すのか、構図や制作分担はどのようなかについて相手と相談して決めた。



【Step4：壁画の制作(11月～2月)】

日本側は11月～12月、海外側は1月～2月に壁画を制作した。先に日本側がキャンバスの半分に絵を描いて相手に送り、相手が残りの半分に絵を描いて壁画を完成させた。



海外に荷物を送る時には様々な注意が必要である。JAMが荷物の送り方や送付時期について詳しくアドバイスした。

[Step5：鑑賞とふりかえり(2月～3月)]

2月に海外側が作品を鑑賞してから日本校に送り、3月に日本側が鑑賞した。最後にこれまでの活動全体を振りかえった。



(3) 国際協働学習の成果である壁画

アートマイルでは学習の成果が目に見える形で残る。30の国と地域の子どもたちと共同制作した63枚の壁画の一部を紹介する。

<ナイジェリア>



<インド>



<インドネシア>



<マレーシア>



<アメリカ>



(4) 壁画の展示

海外校の中には完成した壁画を美術館や市役所で展示したり、街中や観光名所で広げて多くの人に見てもらう街頭展示をしたところがあった。人に見てもらい、人から評価をされて子どもたちは自信と誇りを持つようになる。

<ウガンダ：ウガンダ美術館>



<メキシコ：Downtown Exhibition 街頭展示>



<セネガル：市役所>



日本では卒業式で展示するところが多かった。愛知県の知多市立旭北小学校では、6年生の3クラスが、カタル、イギリス、ブラジルと共同制作した壁画を卒業式で展示した。



また、横浜市では2013年6月に開催される「アフリカ開発会議」に合わせて、横浜市内の学校とアフリカの学校とで共同制作した壁画を市バスにラッピングして市内を巡回することになっている。

3 成果

本年度JAM事務局では、国際協働学習の質の向上を図るために専任スタッフを1名配置し、進捗レポートや交流フォーラムのチェックをはじめ細やかな学習支援を行った。また、JICA 本部の協力により、環境や文化が全く異なる途上国の子どもたちとの協働学習を充実させることができた。

(1) 専任スタッフのサポートによる成果

ア. 各段階で役立つ情報を適時提供

JAM は初めて参加する教師でも容易にアートのマイルに取り組めるように、プロジェクトの各段階で注意することや交流に役立つ情報を適時メールで発信している。専任スタッフによりさらにきめ細かいアドバイスができた。

イ. 進捗状況を把握して進行をサポート

進捗レポートの提出状況とフォーラムの活用状況を毎週チェックして各ペアの進捗状況を把握し、活動が遅れているところやコミュニケーションが取れていないところをフォローし、サポートした。また、進捗レポートに

記載されている質問や困っていることに適時対応した。

進捗管理リストを作成してフォローすることで、多くの学校がほぼスケジュール通りにプロジェクトを進めることができた。

ウ. 英語文例集で意思疎通を容易に

多くの日本の教師にとって英語が国際交流のネックである。7ヶ月という長期間、価値観が異なる相手と協働学習を行うためには英語でのコミュニケーションは必須である。言葉が障害となって相手とのやり取りが滞ることがないように、プロジェクトの各段階で使える英語の文例集を作成し、いつでも利用できるようにフォーラムにアップした。プロジェクト終了後のアンケートには、英語文例集が非常に役立ったというコメントがあった。

エ. 荷物送付アドバイスで輸送トラブル回避

絵が相手に届かなかったり日本に戻ってこなかったりするとプロジェクトはその時点で止まってしまう。本年度は確実に荷物が届くようにネットで荷物の追跡ができるEMS（国際スピード郵便）を利用することを参加の条件とした。

確実に荷物を届けるには相手の長期休暇に荷物が届かないように発送日を考慮することも必要である。しかし、海外に荷物を送った経験がない教師にはそうした知識が無いのが一般的である。そこでJAMでは、荷物の送り方、EMS用紙の記入の仕方、相手の休みを事前に把握して発送日を決めるなどきめ細かなアドバイをした。さらに荷物の追跡調査も行った。

その成果があって、カナダから日本の学校に送られてきた完成作品が宛先不明のため危うくカナダに返送されるところを未然に防ぐことができた。作品は日本の学校の卒業式に間に合って卒業式で展示することができた。

（２）JICA の協力による成果

本年度は5月に JICA 本部から世界中の JICA 事務所に、青年海外協力隊員の任務としてアートマイルプロジェクトへ参加することを推奨する公電が出されたことにより途上国の参加が増え、13の国と地域から14の学校・教育施設の参加があった。

＜JICA の支援を受けた参加国・地域＞

インド・キルギス・コスタリカ・スリランカ・セネガル・
チュニジア・ニカラグア・ブラジル・ホンジュラス・
マレーシア・モロッコ・ヨルダン・ルワンダ

途上国と交流した日本の教師は、JICA 隊員のサポートのお陰で相手との意思疎通が容易になり、協働学習を充実させることができた。

ほとんどの日本の子どもたちは途上国で暮らす子どもたちのことをこれまで意識したことがなかった。自分と同じ年の子どもが世界の全く違った環境の中で自分と同じ今を生きていることに気づいた子どもたちは今後も世界に目を向けることだろう。

ジャパンアートマイルは、子どもたちがアートマイルをきっかけに視野を広げ、将来世界の人々と協働して未来を築いていく人材に育っていくことを願っている。

ニカラグアでは JICA のオフィシャルサポーターの高橋尚子さんが JICA 隊員がサポートしている青少年の家を訪問して子どもたちが日本の子どもたちとアートマイルで交流している様子を視察した。高橋さんは子どもたちが国境を越えて繋がっている活動に感動して、日本の子どもたちの卒業式にお祝いのビデオメッセージを送ってくれた。



（３）アンケートから見える教師からの評価

プロジェクト終了時のアンケートから参加教師の感想を紹介する。

○「国際交流」や「異文化理解」といったテーマは多くの学校で取り組むが、実際の交流となるとハードルが高く、これまでは調べ学習をしたりゲストティーチャーを招いたりする学習にとどまっていた。しかしアートマイルプロジェクトでは実際に相手がいって、相手を想像しながら活動でき、壁画の制作という子供たちの人生においてかけがえない体験をさせることができた。大変すばらしいプロジェクトである。(小学校)

○子どもたちはアートマイルの活動を通してブラジルを身近に感じ、素晴らしい国・地域、行ってみたい国・地域と思うようになった。他の国・地域への関心も高まり、世界の課題について考えるきっかけにもなった。(小学校)

○国語や社会など他教科の6年の学習と関連づけながらプロジェクトを進めた。子どもたちは教科の中で考える国際協力や世界平和への関心も深めながらプロジェクトを楽しんで取り組むことができた。テレビ会議等でコミュニケーションを取ることによって相手の子どもたちと友達になり、相手の国・地域に親しみを持ち、世界平和を願う気持ちが生まれ、それを実現させる自己の生き方を一人ひとりが考えていた。6年生にとって非常に価値ある取り組みに参加できてとても満足している。(小学校)

○今年の交流校の担当が JICA の隊員で日本人だったため、言葉の壁もなく、日程も誠実に守っていただけて、とても良かった。テレビ会議は4回もでき、学校間の交流は十分満足のいくものだった。(小学校)

○子どもたちはアートマイルで世界とつながったことをきっかけに、世界の厳しい現状を知ることができた。自分たちにもできることを考え、カンボジアの地雷撤去の活動をしている CMC という団体に書き損じはガキや文房具を送ろうと活動している。(小学校)

○フォーラムに載っている「交流に使う英文例」が

大変役に立った。(小学校)

○今後は他教科との連携を視野に入れてアートマイルを校内に広げていきたい。単なる壁画の制作ではなく、多くのことを学ぶ機会である。今後も継続して取り組んでいきたい。(中学校)

○完成作品で鑑賞の授業をした時の子どもたちの発言「インドネシア側の絵を見ていると私達よりもずっと自分達の伝統文化を大切に生きているのを感じる」「住んでいる場所と国・地域は遠く離れていてもみんな同じ地球で一生懸命毎日をその国・地域の人なりに生きているんだと思った」アートマイルは本当にすばらしい。これほど子どもたちが成長するとは、正直思っていなかった。(中学校)

○長期間相手とコミュニケーションをとりながら協働して進めていくこのプロジェクトは生徒の意識を変える力を持っている。(高校)

(4) メディアによる外からの評価

国内外の新聞やテレビで多く取り上げられ、子どもたちがプロジェクトを通して相互理解を深めていることが大きく評価された。

海外でメディアに載った国・地域は、アメリカ・ウガンダ・カナダ・カタール・台湾・チュニジア・ニカラグア・パキスタンなど。国内でも新聞で紹介された学校がいくつもあった。



【記事】台湾・カナダ
パキスタン・日本



4 課題と対策

2012 年度のプロジェクトを振り返って見える課題とその対策を考える。

(1) 双方向のコミュニケーション不足

アートマイルの国際協働学習では教師が相手とコミュニケーションを密にとることが成功の鍵となるが、毎年、お互いのやり取りが非常に少なく、スケジュールが遅れるペアが出る。原因は、教師がインターネットに慣れていない、相手の状況に配慮しないで自分のクラスの都合で学習活動を進めるといったことが考えられる。「週に一度はメールをチェックしましょう」「短いメッセージでいいから自分たちの様子を相手に伝えましょう」と何度も促すが、最後まで反応が少なかった学校があった。

動きの悪いペアはプロジェクトの始まりでつまづいていることが多かったので、次年度の参加者には事前に双方向のコミュニケーションが最も大切であることをしっかりと伝え、7月～8月にフォーラムを使う練習をする期間を設け、プロジェクトが始まる時には全員がフォーラムを使えるように指導する。

(2) 学校のインターネットセキュリティの問題

海外でフォーラムが使えない学校が1校あった。また日本の学校で Skype が使えないためテレビ会議を断念したところがあった。いずれも学校のインターネットセキュリティがネックであった。

海外の学校に関しては、学校からインターネットにアクセスでき、フォーラムを使えることを参加条件とし、国内の学校に関しては、ネットを管理している教育委員会などに相談して一定期間セキュリティを解除してもらうなどの措置を指導する。

(3) 画材費と送料

学校予算が抑制されている中、画材費と海外に荷物を送る郵送料の捻出に苦勞している学校が多かった。国際競争が激しくなる中で日本の存在感が薄くなっているといわれる現在、世界の舞台で活躍する未来の日本人を育てるためにも、アートマイルのような国際協働学習の成果が見えるプロジェクトへの国の助成を求める意見があった。